



シラバス参照

タイトル「2018年度シラバス」、フォルダ「経済経営学類」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	教養演習 I		
担当教員	大川 裕嗣		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	経:E
講義室			
開講学期	前期		
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
準備事項			
備考			
ナンバリング			
授業概要とねらい	<p>福島大学の教養演習は、今から20年前、三つの「ねらい」を定めて設けられた科目です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学生が自分たちで考え、討論する場、人間的交流を深める場をつくる 2 読む・書く・討論するという学問の基礎的能力を養う 3 学生が学問への動機づけや学ぶ姿勢を獲得するような契機を豊かに与える <p>このクラスも当然これらの「ねらい」をもっています。 つぎにこのクラスの「概要」について。 このクラスでは上の「ねらい」を実現するために、「大学で学ぶこと」そのものをテーマとします。 大学で学ぶことと高校までの学びとはどう違うのか、日本の学校で行われている学びは万国共通のものなのか、 そういったことを考えながら、みなさん自身に、自分は大学でどのように学んでいけばよいのか、そして良い学びのためには、どのような技術が必要なのか、考え、そして実践してもらおう場として、この教養演習を運営します。</p>		
望ましい水準	<p>大学教育は4年間で完結するものですし、その成果はみなさんの生涯を通じて実現されていくべきものです。だから、一つひとつの授業の成果を、その学期ごとに測ることに、あまり意味はないのかもしれませんが、 とはいえ、教養演習はみなさんの大学生活をよりよいものにするための基盤をつくる科目ですから、上記の「ねらい」の実現にできる限り努めたいと考えています。</p>		
授業計画	<p>この授業は前期の16週間でいちおう完結しますが、基本的には同じメンバーのままで後期の「教養演習 II」に続きます。</p> <p>前期の第1回には、ガイダンスと、ちょっと変わった方法による、みなさんの自己紹介を行います。</p> <p>5月27日の日曜日には、丸一日を使って「新入生学外研修」を行うので必ず参加して下さい。現段階では、公益社団法人福島青年会議所が主催する「信夫山パークランニング」に運営補助スタッフとして参加させてもらうように交渉中です。</p> <p>6月9日には通常の授業時間を使って「メンタルヘルスオリエンテーション」が、また他のいずれかの週にも同様に「図書館ガイダンス」が行われることになるでしょう。</p> <p>以上のほかは毎週、基本的には下に書いたようなテキストを使って、テーマに沿って学んでいきます。皆さんのなかから各回およそ2人ずつ、報告と司会を担当してもらい、討論を行なうのが基本です。</p> <p>そして、みなさんにレポートの書き方を学んでもらうために、テキストについての小課題と、学期末には、まったく別のテーマの小課題を用意する予定です。</p>		
教材・教科書	<p>最初のテキストは、子安美知子『ミュンヘンの小学生』中公新書1975年(本体680円)、この本を6回ほどかけて読む予定です。</p> <p>「大学で学ぶ」ことがテーマなのに小学生の本だなんて、あなたは変に思うかもしれませんが、でも、この本には、「学ぶ」ことの意味を根本から問い直させるだけの力があると、私は思います。</p> <p>いまから40年以上も前、まだ海外旅行をする人も少ない時代のこと、6歳のフミは留学する両親とともに、ドイツのミュンヘンに渡ります。ドイツ語を一言も話さず幼稚園にもなじめなかったフミは、風変わりな小学校に入って大きく成長していきます。教科書を使わず、ひたすら絵を描いたり踊ったり、そんな日本の学校とはかけ離れた日々を過ごしながら、子どもたちはさまざまな力を身につけていきます。「学ぶ」とことはまるで無縁にも見えるのに、いつのまにか「学ぶ」力が身についていくのはなぜなのか。振り返ってみて、日本の多くの学校は本当に「学ぶ」力を育てているのか。この本からは、いろいろな問題が浮かび上がってくるはずです。</p>		
参考図書	<p>字数制限で上の欄に書ききれなかったので、2冊目のテキストはこの欄で紹介します。ただし出版社の在庫が僅少のため変更の可能性もあります。</p> <p>鎌田遵『ぼくはアメリカを学んだ』岩波ジュニア新書2007年(本体820円)。</p> <p>こちらは高校時代にほとんどお金も持たず知り合いもいないユーラシア大陸横断の一人旅をなしとげたものの、成績がふるわずに日本の大学には進めず、アメリカに留学し、いまはネイティブアメリカン社会の研究で知られる大学教員と</p>		

	なった人の体験記です。とはいえ、これがまたとんでもない体験の連続なのだけれど…
参考URL	
授業以外の学習	<p>毎回の討論を意義深いものとするためには、みなさんがテキストの指定部分をきちんと読んでいただくことが大前提です。授業の直前の昼休みにさっと読んで済ませたりしては勿体ない！ 木曜の授業が終わったら、週末までには次回の分を一度じっくりと読み、どんな発言をしようか考え、そして説得力ある発言をするためには、図書館やインターネットを駆使しているいろと調べ、授業の前夜にはもう一度テキストをじっくりと読み返して考えをまとめる。それくらいの準備は必要です。</p> <p>ふだんからそういった準備をきちんとしていけば、小課題など、まったく苦にならないでしょうし、あなたは大学での4年間の「学び」を楽しめるようになるでしょう。そう。上記の「ねらい」の3番目が、あなたの生涯にとって本当に意義深いものとなるか否かは、あなた自身の努力にかかっているのです。</p>
成績評価の方法	特別な事情が無い限り毎回、上のような準備をして出席し、討論できちんと発言していくことが重要です。そして、仲間との良い「場」をつくるための努力も大切です。それらの条件を満たしていれば、当然、良い成績が得られます。
成績評価の基準	学習案内に記載されている基準によります。
オフィスアワー	<p>教養演習の担当者は「アドバイザー教員」でもあります。みなさんの学習全般にとどまらず、生活面について、そのほかどんなことについても、いつでも相談に応じます。特に時間は定めません。</p> <p>なお、私の連絡先については、初回の授業の際にお知らせします。</p>
留意点・注意事項	
その他	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け1	幅広い教養／学問的思考の基礎(幅広い教養2)
カリキュラムにおける当該科目の位置付け2	自己形成力／自己学習力(自己形成力1)
カリキュラムにおける当該科目の位置付け3	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け4	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け5	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け6	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け7	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け8	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け9	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け10	
カリキュラムにおける当該科目の位置付け他	

